

語り手

松井 まつい

幸子 さちこ

さん



町家カフェ FURION 店主

姫路市材木町

二〇一七年四月、材木町の町家カフェ『Furion』の店主。料理に、パンづくり、接客やお店のPRをひとりでこなされています。
一九九五年三月十六日生まれ
出身は兵庫県の尼崎市です。

ダイエットの難しさから、栄養に興味を持つ

姫路には、兵庫県立大学環境人間学部に入學するために来ました。食環境栄養過程というコースに入ったので、主に管理栄養士になるため、食物とか栄養とかそういう勉強をしていました。

食に興味を持ったのは高校生の時。入学してすぐくらいに、ダイエットを始めたことがあります、中学時代部活していたのを辞めた時、激太りしてしまったことがあります。自分の独学でダイエットをしてしまうと、偏った食生活に行きがちでした。「〇〇だけ食べるダイエット」とか「晩御飯食べないダイエット」とか、そういったものについてしまい苦しい思いもしました。なので、栄養から勉強できればと思ったのが食や栄養に興味を持ったきっかけです。

中学時代は剣道をしていたので、食べても太らない性質やと思っていたんですが、それは剣道をやっているおかげだと感じました。

剣道をやっていたおかげで、未だにお客さんからも姿勢がいいと言われてます。

栄養士から、カフェへ。夢の移ろい

大学時代四年間は勉強が楽しく、生化学や分子レベルのことまで学んだんですが、生態の中で、食べたものがどこまで分解されて、最終的に水と二酸化炭素になるところまでを。それ以外にも、例えば病院での食のカウンセリング方法など、人間対人間の対応の仕方なども勉強もしました。

材木町のこの場所でカフェをやるきっかけは、大学時に学生団体「ひめえん」というチームで、しょうあんの町家で週末だけカフェを運営させてもらった経験があり、卒業後にも

お願いしてここでこのままカフェ「Luna」として営業させてもらえることになりました。

学業に打ち込んでいた方だと思えます。ほぼバイトも最低限しかしなく、「お金を稼ぐためのもの」として割り切っていました。でも、バイトをしていたスーパードでの接客が、少なからず今に繋がっていると思います。

管理栄養士は受けることを前提のコースだったので、三年生までは公務員で栄養のことを仕事にしようと考えていました。栄養士の中でもエリートと言われることをやりたかったからです。ただ、保健所の実習に行って、思ったより事務的であったので「これで一生働きたい」とは思えなかった。

カフェをするのは楽しみに感じましたし、学生団体とは別で、個人でカフェを一週間だけ自分で運営したこともあり、苦労は多かったですがとても充実を感じました。

居心地への関心と、この地で店をやる意味

いちど大きなカフェで働いたこともあったのですが、キッチンとサービスで配膳するセッションが完全に別れてしまっていたので、全てを把握した上で料理を提供できていなかった。今のカフェでは、水を出すタイミングも自分で計ることができるので、今の方がお客さんに寄り添えていいなあ。

カフェを始める当初は食えることしか興味がなく、店の雰囲気や場所の良さには気づいてなかった。それをお客さんや外部の方から教えてもらえることになり、カフェをしていくには食部分だけでなく、建物や雰囲気づくりなども、総合的にやっていく必要があると感じています。

お客さんには、小さなお子さん連れのお母さんが多いのですが、座敷のあるカフェが他にあまりなく、子ども連れで来やすいことを学んだ。お母さんがたも、保育園でそういっ



た情報をシェアしてくれているようで大変ありがたいです。絵本があるのもとても喜んでもらえています。

子連れのお客さん同士が、その場所で仲良くなってくださるのは嬉しいですね。

このお城の近く、姫路のこの街でやる意味というのはまだまだこれから考えなくてはなりません。観光のお客さんが来られた際など、この地域のことを説明できた方がいいな、と。

元々、出身がマンションでご近所づきあいがない場所で育ったので、カフェを運営しているこの地域はご近所づきあいが盛んなので、ぜひそこも学んでいけたらと思っています。

将来の目標は、料理にばかり視線がいったので、お店の雰囲気づくりや宣伝の仕方など、カフェを運営していくことを勉強していこうという気が起こり始めています。このカフェは癒されると言ってくれる方が多く、普段仕事して疲れてここ来たら回復できますという声が多いので、そこも伸ばせたらと思っています。

閉店ギリギリ入店された方でも、ひとりでカフェをやっているので対応できますし、仕事帰りにパンを買って帰りたい方がおられたら、七時まで仕込んでいる時にお渡しするなど、お客さんの声に沿ったサービスはやっていきたいですね。そのためにも、自分の体調管理は万全にしていきたいです。

聞き手

池島 耕 さん

夕雲舎デザイン事務所・代表
グラフィックデザイナー

松井さんは「ひとりで何でもやるのがあっています」と言われるくらい真っすぐな方。

お話しをお聞きして、そのまっすぐな所がお店にも活きているなど感じました。